

生物多様性コンサルティングサービスの提供開始 ～ 国際環境 NGO と生物多様性の取り組み支援サービスを共同開発 ～

株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント(以下、「損保ジャパン・リスク」、社長:石川 秀洋)は、国際環境 NGO バードライフ・インターナショナル(本部・英国ケンブリッジ)のアジア部門である特定非営利活動法人バードライフ・アジア(以下、「バードライフ」※1、代表:クリスティ・ノザワ)と共同で、生物多様性に関する企業活動の評価や課題・対策の明確化などを通じて、企業の生物多様性への取り組みを支援する「生物多様性コンサルティング」を開発し、今月から提供開始しました。

※1 バードライフ

鳥類をシンボルに環境保全を推進する国際環境NGOバードライフ・インターナショナル(本部:英国ケンブリッジ)のアジア部門です。鳥を指標とした重要な生息環境の保全や森林保全を通じた生物多様性の保全、地球温暖化防止のためのさまざまな活動をしています。

1. サービス開発の背景

近年、生物多様性が失われることによる人類の活動や地球の持続可能性への影響が懸念されており、生物多様性は、現在では気候変動とならぶ国際的な環境問題として認識されています。

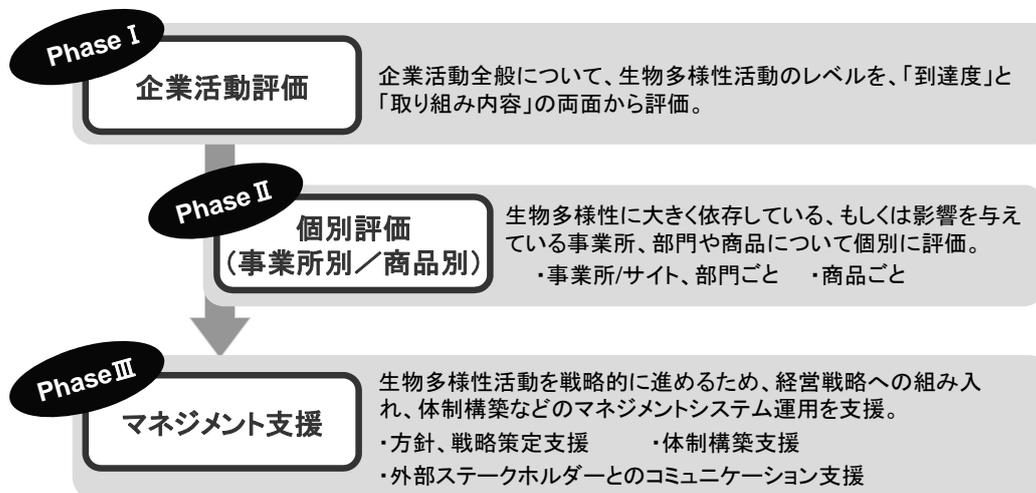
生態系の危機などに代表される生物多様性問題は、長期的には企業の持続可能性にも大きく影響すると言われており、第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)においても、「ビジネスと生物多様性」が議題の一つとなりました。しかしながら、企業にとっては自社の事業と「生物多様性」との関係がわかりにくいと、「どのような取り組みをすれば良いのかわからない」という声が出ていました。

このような企業の声に応えるため、バードライフと損保ジャパン・リスクは、生物多様性の側面から企業活動を評価することで企業を取り巻く課題や対策を明確化し、経営的視点をふまえて、企業の生物多様性に関する取り組みを具体的に支援する「生物多様性コンサルティング」を開発しました。

2. サービスの概要

(1) サービスの内容

本サービスは、企業の目的や取り組み状況に応じて、以下の3種類のメニューを提供します。



(2) バードライフと損保ジャパン・リスクの豊富なノウハウの活用

生物多様性コンサルティングにおいては、バードライフと損保ジャパン・リスク両社が持つ以下のノウハウを活用することで、実効性のある評価、助言などのサービスを実現しています。

【バードライフ】

- ・生物多様性に関する豊富な知見
- ・NPO法人という公正・中立的な評価

【損保ジャパン・リスク】

- ・環境経営支援の豊富なノウハウ
- ・さまざまなリスクに対する豊富な知識・コンサルティング経験

(3) 料金

○Phase I (企業活動評価)	50万円～(自己チェックのみ) 80万円～(自己チェック+ヒアリング調査)
○Phase II (個別評価)	1事業所/部門単位:300万円～、1商品単位:200万円～
○Phase III (マネジメント支援)	要相談

* 料金やサービス期間は、企業規模やコンサルティングの内容に応じて異なります。

3. 今後の取り組み

バードライフは、日本企業に対し、生物多様性マネジメント支援を通じて生態系サービスへの適正な支払い^{※2}と、持続可能な利用の促進に取り組めます。

また、損保ジャパン・リスクは、環境マネジメント構築支援を通じた環境経営支援のノウハウやあらゆるリスクに対する豊富な知見とコンサルティング実績の強みを生かした生物多様性のサービスをバードライフと共同して展開します。今後も、気候変動や生物多様性など、さまざまな社会的課題解決を目指すリスクマネジメント・サービスを提供していきます。

※2 生態系サービスへの適正な支払い

現在、「生物多様性のもとに成り立ち、われわれが享受している生態系サービス(自然の恵み)は無償ではない」という考え方が広まりつつあります。そのため、生態系サービス(自然の恵み)の享受の際の、対価の支払いと利益の再配分の原則を明確に示すための評価手法を早急に開発する必要があると言われてしています。

以上

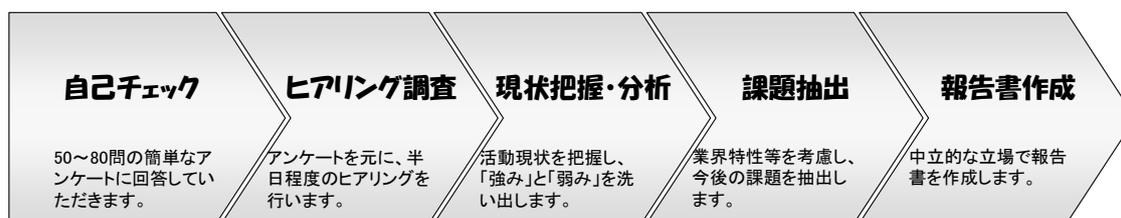
(参考資料)

【サービスイメージ(Phase I 企業活動評価)】

1. 概要

企業活動全般について、生物多様性活動のレベルを「到達度(PDCA管理ができているか)」と「取組内容(具体的取り組みをしているか)」の両面から評価します。これによって、企業は自社のどのような取り組みが生物多様性の確保に有効な活動なのか、また今後どのような課題に取り組むべきなのかを認識し、整理することができます。

2. 評価の流れ



3. 評価内容

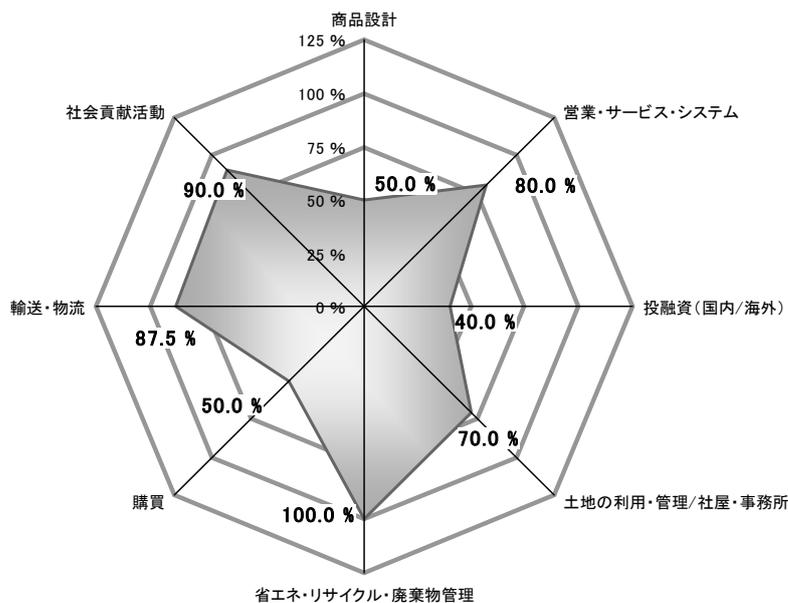
(1) 到達度評価(PDCA管理ができているか)

「方針の設定」や「生物多様性との関わり」の現状把握、「目的・目標の設定」など、企業の取り組みの到達度(PDCA管理ができているか)を評価します。

(2) 取り組み内容評価(具体的取り組みがなされているか)

具体的取り組み内容がなされているかを評価します。事業プロセスおよび社会貢献活動について取り組み状況を評価します。

～取り組み内容評価 結果例(金融業)～



※業種により、評価する事業プロセスは異なります。

以上